

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立泉が丘中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年 国語 224人 社会 224人 数学 224人

理科 224人 英語 224人

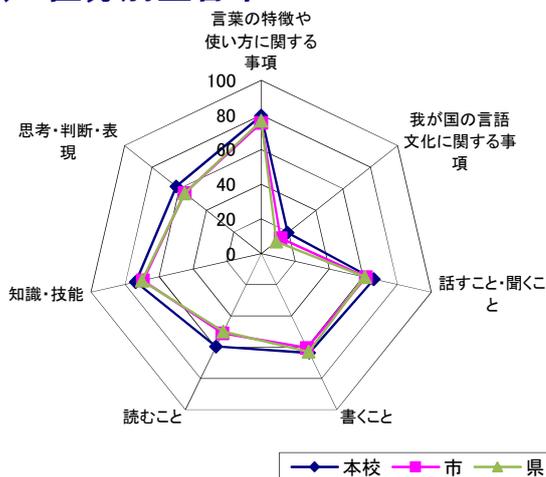
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立泉が丘中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.6	75.5	76.7
	我が国の言語文化に関する事項	19.4	14.3	11.2
	話すこと・聞くこと	66.2	61.6	60.9
	書くこと	63.6	60.4	62.9
	読むこと	59.5	51.0	49.9
観点	知識・技能	73.6	69.4	70.1
	思考・判断・表現	62.2	56.0	55.9



★指導の工夫と改善

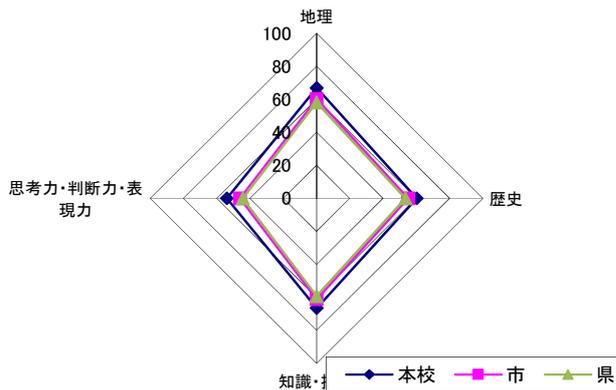
○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○平均正答率は79.6%であり、市や県の正答率を上回っている。特に単語の種別についての理解をみる設問については県や市の正答率を5ポイント以上上回っている。また、漢字の読み・書きの問題では、すべての設問において県の平均を上回っている。	・授業内で漢字の小テストを実施するなど、基礎・基本の定着に取り組んできたことが成果につながっていると思われる。今後も引き続き、漢字の予習・復習に取り組むことに力を入れていく。また、日常的に漢字を正しく使うことを身につけさせていく。
我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は19.4%であり、全体的に見ると相当低い数字だったが、市や県の正答率と比較するとかなり上回っている。	・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる設問であったが、基礎的な力が身に付いていないといえる。今後、AI型学習ドリルなどを活用し、基礎的な力を身に付けることに重点的に取り組み、古文に読み慣れ、親しみを持てるような指導をしていく。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は66.2%であり、市や県の正答率を5ポイントほど上回っている。特に「条件に従って自分の考えを書く」設問においては、市や県の正答率を9ポイント以上上回っている。	・話し合い活動を通して、自分の考えを明確にし、さらに相手に伝えるような話し方を工夫できる力が身に付くよう指導していく。
書くこと	○平均正答率は63.6%であり、市や県の平均を上回っている。特に、自分の考えを明確にして書くことができるかどうかをみる設問においては、市や県の正答率を大きく上回っている。 ●「指定された長さで文章を書く」という設問のみ県の平均を1.2ポイント下回っている。	・補助教材のワーク類や単元プリントに出てくる「指定された長さで文章を書く」設問について授業で取り上げ、指定時間で書くことに慣れるような指導をしていく。また、「考えを短時間で整理する」「考えを言語化する」という学習活動を取り入れていく。
読むこと	○平均正答率は59.5%であり、市や県の平均を大きく上回っている。特に、登場人物の行動や心情を捉える設問や場面の展開を捉える設問においては、市や県の平均を10ポイント以上上回っている。	・文章を読み取る力については、説明文を読んで論理的に思考することの大切さを考えたり、小説や物語を読んで場面に応じてどのような表現がされているのかを考えたりするなど、様々な視点をもって読むことを指導していく。

宇都宮市立泉が丘中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	66.9	60.1	58.1
	歴史	60.3	55.1	53.5
観点	知識・技能	66.6	61.1	59.3
	思考力・判断力・表現力	53.9	46.0	44.3



★指導の工夫と改善

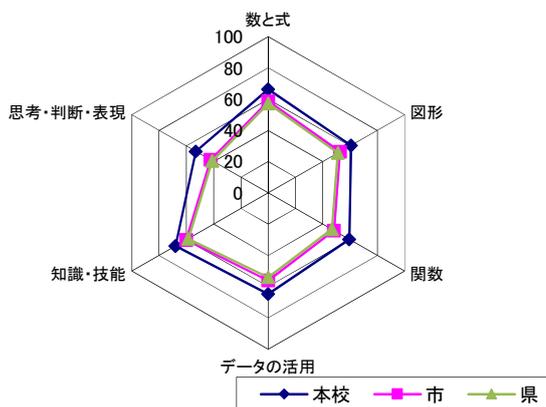
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>○平均正答率が、市平均及び県平均よりも上回っている。</p> <p>○選択式や短答式の問題の正答率が高く、基礎基本が定着していると考えられる。</p> <p>○地図中に示された3つの県の共通点を述べた文として正しいものを選ぶ問題では、正答率が85.6%と良好であった。</p> <p>●「排他的経済水域」の問題では、県の平均を2.5%下回った。</p> <p>●資料から読み取れる内容を用いてナイジェリア経済の課題を考えて記述する問題では、県の平均を上回ったものの、正答率が28.8%と理解度が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「排他的経済水域」については、地図や資料の読み取りを多く取り入れ、技能を高めていく。 ・「ナイジェリアの経済」については、一つの資料からだけではなく複数の資料を関連付けて読み取ったりそこから分かることを考えたりする場面を増やしていく。また、意見交換等を通してさまざまな考え方や視点があることに気付かせていく。
歴史	<p>○平均正答率が、市平均及び県平均よりも上回っている。</p> <p>○選択式や短答式の問題の正答率が高く、基礎基本が定着していると考えられる。</p> <p>○万里の長城が建築された理由を述べた文として適切なものを選ぶ問題では、正答率が89.6%と良好であった。</p> <p>●古代ギリシャの政治のしくみについて述べた文の中で誤っているものを選ぶ問題では、正答率が県の平均より1.7ポイント低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「古代ギリシャの政治のしくみ」については授業の中で資料や歴史地図、年表の読み取りを多く取り入れ、知識・技能を高めていく。 ・歴史分野でも、一つの資料からだけではなく複数の資料を関連付けて読み取ったり意見交換をしたりして、さまざまな考え方や視点があることに気付かせていく。

宇都宮市立泉が丘中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	66.3	58.6	57.2
	図形	60.8	52.6	51.1
	関数	59.5	48.2	46.8
	データの活用	64.7	56.1	54.1
観点	知識・技能	68.0	60.2	58.6
	思考・判断・表現	53.2	42.3	40.9



★指導の工夫と改善

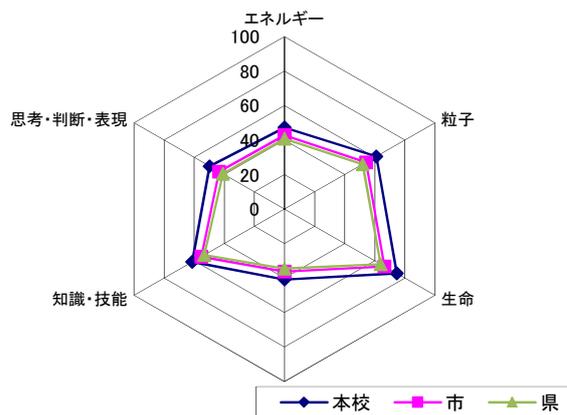
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正答率は66.3%で、市平均より7.7ポイント、県平均より9.1ポイント上回っている。特に、与えられた文章題に対して、適切な1次方程式を立式する問題では、県平均より27.4ポイント高くなっている。 ●正の数と負の数の大小関係では、県平均より3ポイント低くなっている。	・減法や負の数を含む問題を苦手としている生徒もいる。1年生から小テスト形式の練習をさせるなどの活動を取り入れ、基礎基本の定着を図っていく。 ・比例式の問題や、1次方程式を立式する問題が苦手で、で無回答の生徒がいるので、数量の関係を見出すことや文字を使って表すことなど、かくために必要なことを理解させる。
図形	○正答率は60.8%で、市平均より8.2ポイント、県平均より9.7ポイント上回っている。特に、垂直二等分線の作図の問題では、県平均より27.2ポイント高くなっている。 ●半径が等しいおうぎ形と円の面積の大きさについて、何倍であるか答える問題では、県平均より7.4ポイント高くなっているが、正答率は30.2%と低い結果だった。	・しかし、形が異なる図形の大きさを比較し、何倍か答える問題を苦手とする生徒が多い。問題を解くために必要な性質や公式など既習事項を確認しながら演習していく。
関数	○正答率は59.5%で、市平均より11.3ポイント、県平均より12.7ポイント上回っている。特に、反比例の式を選ぶ問題や比例のグラフをかく問題では、県平均を10ポイント以上上回っている。 ●与えられたグラフから、求め方を説明する問題では、県平均より14.8ポイント上回っているが、無回答率が36.9%と高くなっている。	・与えられた表から、yがxに比例している表を選ぶことはできるが、グラフから求め方を説明することを苦手とする生徒が多い。身近な問題を取り上げ、ともなって変わる2つの数量の変化を追いながら、理解を深め、説明できるようにしていく。
データの活用	○正答率は64.7%で、市平均より8.6ポイント、県平均より10.6ポイント上回っている。特に、度数分布表から、ある階級の相対度数を求める問題では、県平均より15.7%上回っている。 ●示された考えが正しい理由を、2つの度数折れ線から読み取った傾向をもとに説明する問題では、県平均より10.4ポイント高くなっているが、無回答率が27.5%と高くなっている。	・資料の整理の単元では、度数分布表、相対度数、累積度数、度数折れ線などの基礎内容が身につけていない生徒がいる。基礎的な問題を多く解き、再確認させる。 ・データの読み取りや傾向を数学的に説明することは難しく、苦手としている生徒は多い。数値の変化や規則性など丁寧に解説し、問題を多く解くことで理解を深めさせる。

宇都宮市立泉が丘中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	47.3	42.8	40.8
	粒子	61.0	54.2	52.0
	生命	74.6	66.4	63.8
	地球	40.8	36.2	34.5
観点	知識・技能	61.4	55.2	53.3
	思考・判断・表現	49.8	43.5	41.0



★指導の工夫と改善

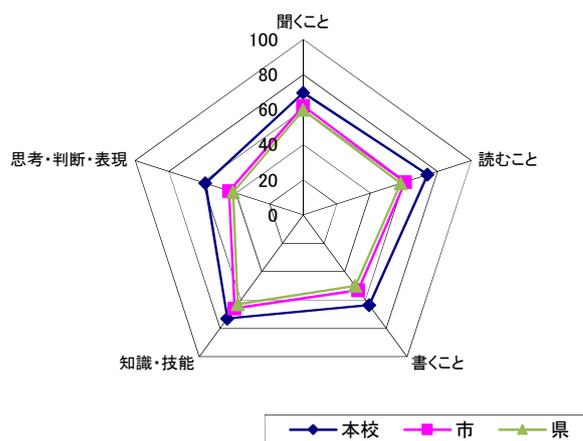
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○平均正答率は市や県を大きく上回っている。</p> <p>●「2つのばねの長さが等しくなる時のばねに加える力を求める」の問題の正答率が、市や県を上回っているものの、3割程度と低かった。「また誤った考察を正しく書き直す」の問題では考察を検討し改善するといった力が身につけておらず改善の余地がある。</p>	<p>・「力の性質」は目に見えない概念である。それを見る形にして考えやすくするために〈ばね〉が有効で〈力〉は〈ばねののび〉と比例の関係にあることを、実験結果を基に理解につなげたい。そのために実験を通して得られた結果をもとにレポートを作成させ適切な考察を行うができるよう支援する。</p>
粒子	<p>○平均正答率は市や県を大きく上回っている。特に、密度を求める式と金属の名称を選ぶ問題の正答率が8割強で、市の平均よりも6.3ポイント高かった。またアンモニアを上方置換法で集めるを気体の性質にふれて考える問題では市の平均よりも13.0ポイント高かった。よく気体の性質を理解することができていたと考えられる。</p> <p>●硝酸カリウムの決勝の質量とそれを求める問題の正答率が、市や県を上回っているものの、3割強と低かった。</p>	<p>・溶解度や溶解度曲線については、塩化ナトリウム・硝酸カリウム・ミョウバン・砂糖で教えることになっている。その他の物質に基本知識を汎用させて考えることができていると考えられる。そのために基本となる物質の場合について、文章で説明できるようにする。</p>
生命	<p>○平均正答率は市や県を上回っている。卵生の名称を答える問題では97.3%とほぼすべての生徒が正答でき市の平均よりも7.8ポイント高かった。</p> <p>●胚珠の名称とイチヨウの雄花を選ぶ問題では市の平均よりも5.8ポイント高かったものの5割弱の正答しか得られなかった。</p>	<p>・基本知識の定着は良好だったものの、あまり馴染みのない植物になると、それらの知識を汎用させて考えられない生徒が多かった。そのために日頃から様々な植物に興味関心を抱き、疑問を持ちながら観察する習慣を養わせる。授業の中でもできるだけ実物を見せたり、教科書にはない植物を写真で紹介したりしながら、疑問を持って観察することを習慣化させ、思考力の向上を図る。</p>
地球	<p>○平均正答率はほとんどの内容で市や県を上回っているものの、正答率が4割程度と他の分野と比べて低い。</p> <p>●火山をマグマの粘りけ小さい順に並べる問題では市の平均56.6%を1ポイント下回った。また地層の特徴から海岸との距離の変化を問われた問題では市の平均は上回ったものの正答率は18.4%と低かった。</p>	<p>・地層の広がりや、重なりを理解して問題を解くことに課題がある。映像や写真を効果的に用いながら、地下の地層の広がりをイメージさせたり、補助問題を用意して解かせたりしてより良い理解につなげたい。</p>

宇都宮市立泉が丘中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	69.6	62.0	59.7
	読むこと	74.0	60.6	58.0
	書くこと	63.6	53.1	50.1
観点	知識・技能	73.1	66.0	63.0
	思考・判断・表現	58.2	44.1	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○正答率が69.6%と、市の平均を7.6ポイント上回っている。問題別では「英文を聞き取り、たずねられたことに対して自分の考えを簡潔に答える。」が市の正答率を16.3ポイント上回っており、9つの中で最も差が大きかった。</p> <p>●「英文を聞き取り、たずねられたことに対して自分の考えを簡潔に答える。」では無解答率も最も高く、聞くことから表現することに対する課題が見られる。</p>	<p>視覚的な情報があれば解答することができるが、書くことを伴うと苦手意識が感じられる。聞くだけでなく、自分の意見などを英文で書く練習を授業内で定期的に設けたり、AI型学習ドリルなどを有効活用していく。</p>
読むこと	<p>○正答率が74.0%と、市の平均を13.4ポイント上回っている。問題別では「対話から必要な情報を読み取り、適切な表(時間割)を選ぶ。」が市の正答率を18.4ポイント上回っており、4つの中で最も差が大きかった。</p> <p>●「対話から必要な情報を読み取り、適切なイベント(美術館の催し物)を選ぶ。」では無解答率が1.4%と最も高かった。</p>	<p>今後も教科書を中心として活用し、発問内容を既習事項と関連させて出題したり、新たに発問を作成したりするなどの工夫をする。また、教科書以外の英文にも触れる機会を設けることで、英文を読むことに慣れ親しませていく。</p>
書くこと	<p>○正答率が63.6%と、市の平均を10.5ポイント上回っている。問題別では「1・2文目とつながりのある英文を書く。」が市の正答率を22.3ポイント上回っており、最も差が大きかった。</p> <p>●適語補充や語順に関する問題では無解答率も低いですが、場面にあった適切な英文を考えたり、自分自身の意見を書いたりすることに対して苦手意識が見られる。</p>	<p>「書くこと」が最も低い数値となっている。問題演習や単語テスト等を行うと共に、スピーチなどのパフォーマンステストで、話すことだけでなく、英文を自分で考えて書くような場面を今後も設ける。また、どの活動においても日常的にその英語を使うような場面背景を考えさせる。</p>

宇都宮市立泉が丘中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の予習をしている」「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」「勉強しておもしろい、楽しいと思うことがある」「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」の項目では、肯定割合が県の平均より高い。学習に関して、主体的に取り組もうとする意欲や態度があると言える。今後も、この前向きな姿勢を継続していけるよう生徒たちに、課題から解決策を考える機会を提示していきたい。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」「学級活動の時間に、友達同士で話し合っただけでクラスのきまりなどを決めていくと思う」「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の項目においても、肯定割合が県の平均より高い。心理的安全性が確保できているということで、良好な人間関係が構築できていると言える。

○「学校の決まりを守っている」「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」の項目では、肯定割合が95%以上となっている。学校生活において、基本的な生活習慣が身につけていることがわかる。

○「自分の行動や発言には自信を持っている」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」でも肯定割合が高い。自己肯定感をしっかり持って、自分や周囲をさらに高めていこうという向上心を持っていることもわかる。

●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で勉強するとき、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」の項目では、県より肯定割合が低い。計画的な家庭学習の大切さを指導し、見直しをもった学習習慣を定着させたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業や単元の振り返り	毎時間の授業の最後や単元の最後などに「学習目標」に対する振り返りを行う時間を設定し、その授業や単元を理解しているかどうかを確認する。	「授業の最後、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の項目に対して、肯定的回答が76.2%で、市より6.2ポイント、県より1.9ポイント高い結果となっている。重点的に取り組んだ成果が表れていると言える。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「家で、学校の授業の復習をしている」の項目に対して、肯定的回答が53.8%で、市より12.6ポイント、県より16.6ポイント下回っている。学習塾へ通う生徒の数が多く影響していると思われる。	部活動がない水曜日を家庭学習の日を設定し、既習の内容を復習させる。	・市で導入しているAI型学習アプリ「e-ライブラリ」で、週ごとに課題となる教科を設定し、毎週集計し、学習面談等での話題にして、復習の習慣化を図る。